

## 第四十回卒業式 式辞

早春の輝きが増すこの佳き日に、東京都立小川高等学校第四十回卒業式を挙行するにあたり、来賓及び保護者の皆様に御参列いただき、厚く御礼申し上げます。

ただ今、呼名され卒業許可されました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとございます。高校生活3年間さまざまな経験を通して成長した皆さんの卒業を心から祝福します。保護者の皆様にもお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、この三年間不測の事態の中、多くの困難を乗り越えてきた人たちです。日常が変わり、当たり前前であった時、皆さんはどんなことを考えたでしょうか。私は、こんな時だからこそ、人が生きていく上で基本となる日々の振る舞いや言葉によるコミュニケーションがとても大切だと思っています。

社長として数々の会社を創業・再建してきた稲盛和男さんのベストセラー「生き方」には、その成功の秘訣が記されています。とい

っても、何か特別な経営術と呼べるものではなく、次の「六つの精進」と呼ばれることに集約されるといいます。

- ① だれにも負けない努力をする
- ② 謙虚にしておこらぬ
- ③ 反省ある日々を送る
- ④ 生きていることに感謝する
- ⑤ 感性的な悩みをしない
- ⑥ 利他行（他を利する、つまり他の人の利益を考え行動する）を積む

以前、一学期始業式で「情けは人のためならず」という言葉を紹介したのですが、他人の利益のために何かをすることは、巡り巡って自分へ還ってくることはよくあります。ほのかな光のようで目立たないけれど、人々にとってはかけがえのない行為を徹底して施した人として真っ先に思い描くのはマザー・テレサです。皆さんも伝記などで知っていると思いますが、彼女は全くの無名の修道女でいしましたが、貧しくて愛や食べ物に恵まれないインドの飢えた人々とってはかけがえのない存在となりました。死にゆく人々を見捨てることなく身を挺して救おうとする地道な行為によって、一九七九年

ノーベル平和賞が与えられました。

そのマザーテレサの残した言葉に次のようなものがあります。

『言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。』

つまり、皆さんが日々使っている言葉が、人生にも大きな影響を与えていくということを伝えていきます。

例えば、高校生活を振り返った時、皆さんはどう考えるでしょう。確かに高校生活におけるコロナ禍は大変でした。生徒の皆さんの苦労は計り知れないものだったと思います。しかし、ネガティブな考えによってネガティブな言葉で振り返るより、ポジティブな言葉を使うことで、確実にこれからの運命は自分の味方になってくれるのだと思います。苦しかったことや悲しかったこと、その辛い思いがプラスになり、いつか必ず花開く、と自分に言い聞かせることができるなら、卒業生の皆さんは、これからの人生を切り抜ける力を身に付けたと胸を張れるのではないのでしょうか。

先月の朝日新聞の「天声人語」に、児童文学者の松岡享子（きょうこ）さんが亡くなったことを受けてこんな話が載っていました。

松岡さんの翻訳の代表作「くまのパディントン」で、原文では「このくまの世話をしてください」といった素っ気ない部分が「このくまのめんどろをみてやってください。おたのみします」と訳されていました。こんな素敵なお話を施す松岡さんは、晩年こんなことを訴えていました。「子どもの反応が弱くなった。それは大人の発する言葉の軽さに原因があるのではないか。実のある言葉を選び、心を込めて子どもに語れ。」これは、これから大人となり社会で活躍する皆さんへのメッセージとして心に留めておいてください。

最後に、卒業生の皆さんが小川高校から巣立った後も、この三年間同様に、他人を思いやる気持ちをもって利他の行為を実践して、言葉を選択し大切に使う、人間的に大きく羽ばたくことを心から願って式辞といたします。

令和4年3月8日

東京都立小川高等学校長 勝嶋 秀行